

A-114 宮崎県におけるインスタント食品の使用の状態

緑ヶ丘学園短大家政

志賀リツ

目的 宮崎県内において、どのような種類のインスタント食品がどの位の回数で用いられているかを知らるために実態調査を行った。

方法

1. 調査期間 昭和44年11月～昭和44年1月 2. 調査対象 宮崎県立高校生徒1758名

3. 調査方法 市販されている食品を種類別に記載し、取扱い、食事時期別に〇×式で記入してもらう。次にその回数を記入する方法を用いた。更にその家庭の生活状態を知るために、主婦の取扱いの有無、耐久消費財の所有状態について調査を行った。

結果 麺類が最も多く用いられる。種類としては、昼食時にラーメン51%、夕食時にやきそば、スパゲッティ、うどんが各々41%、夜食にラーメン36%が多いものである。次に汁物の素では、夕食時にシチューの素46%、ポタージュの素14%が多いのであるが、だしの素は3回共用いられる。朝食に16%、夕食に27%も用いられている。全食品を通じて最も多いのが夕食時におけるカレーの素の94%である。次に用いる回数として、毎日用いる物にラーメン2%あり、月に8回用いる家庭が9%ある。汁の素ではだしの素が毎日5%の家庭で用いられる。シチューの素が月に2回用いられる家庭が8%、1回が10%ある。カレーの素は月に2回用いる家庭が18%、1回が70%と最も多くなっている。以上の結論として、ラーメンが最も多く用いられている。次にルーを必要とするシチュー、ポタージュ、カレー等が多く使用されているのは、ルーの作り方を知らないためかとも思われる。